

## 地震と家具の安全対策

## まずは、ご相談ください。

いざという時の被害を最小限に抑えるために、日頃からの防災対策が重要です。

地震対策は膨大な費用と最新の技術を要しますが、くろがねは、これらの複雑な条件の中から家具に関する条件をピックアップし「低コストで、まず出来ること」の身近な対策をしていくことを提案します。

現状調査、転倒防止工事等、お気軽にくろがねまでご相談ください。

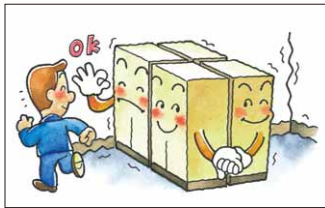
## 今すぐできる転倒防止と安全対策

## スマート型よりアンコ型



- 背高ノックよりアンコ型の方が転倒に対し安定性があります。極端に背の高い家具がある場合は、転倒しても支障の無い場所にレイアウトを直しましょう。

## スタンドプレーより4人タッグ



- 1台の家具を単独でレイアウトすることは非常に危険です。地震で、転倒する確率は1台で使用しているケースが高くなっています。また、反面、相当台数を連結した場合にも「蛇行現象」による連鎖的な転倒も目立ちました。家具の高さや重量にもよりますが4台を1グループとして連結（左右・背中合わせ）した時が最も転倒しにくいと言えます。

## 窓際は通行人にも危険



- 総ガラスの窓や腰壁の極端に低い窓際には、背の高い家具や重量物の家具は置かないようにしましょう。倒れた家具がビルの外に飛び出す危険性があり、ビルの下を通行する人々にとって非常に危険です。特に、金庫類などの重量物は加速がつくと止まりません。設置する方向（キャスターの方向）には十分注意してください。

## ガラスには化粧を、ガラス瓶は入替えを



- 収納家具の扉やパネルなどにガラスを使用したものは、事前に手当てをしておきましょう。ガラスが割れても飛散しない工夫としてシートを貼る方法が最も安価で効果的です。素通しや模様入りなど豊富なパターンがありますから、オフィスの演出にも一役買います。
- また、薬品やサンプルなどガラス瓶に入れたものは、棚類には収納しないようにしてください。どうしても必要な場合は、樹脂製の容器に入れ換えてください。

## 11

## 整列方向（家具レイアウト）の見直し



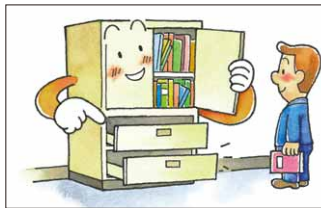
- 長方形のビルでは、建物の方向にもよりますが長手方向に「蛇行現象」が起こることが、報告されています。従って、オフィスのレイアウトプランは短軸方向優先にレイアウトをした方が、より転倒防止に役立ちます。仕事に差し支えない照明ラインの方向など条件の整理が必要ですが、レイアウトプランの再考も有効な対策です。

## 万一倒れても、避難は



- 完璧な転倒の防止策が無い現在、万一倒れた時の二次災害の防止に重点を置くべきです。
- 倒れた家具によって非常口が塞がれないよう、家具の転倒半径以内には出入口が無いレイアウトに変えましょう。
- 廊下には、家具や備品を置かないようにしましょう。

## ヒキダシ（棚）の使い方にも工夫



- 上段のヒキダシ（棚）は使いやすいため、どうしても上段から収納物を詰めていく傾向にあります。上が重く、下が軽い最も転倒しやすい条件をつくっていることとなります。安全のためには、多少の使いづらさがありますが、下段から収納するマナーづくりが必要です。
- また、引出しも手前側ばかりに集中して収納しますと転倒しやすくなります。

## 施錠のマナーづくり



- 仕事が終わった後や使用頻度が少ない家具には施錠をすることをお勧めします。オフィス家具の施錠装置は、地震動の収納物の飛び出し防止に役立ちます。